

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業

・国際交流拠点形成事業)

事業名：東アジア地域の学術文化交流促進事業及び国際
交流展関連シンポジウム

事業者名：宮崎県立西都原考古博物館

住所：宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670番地

TEL：0983-41-0041

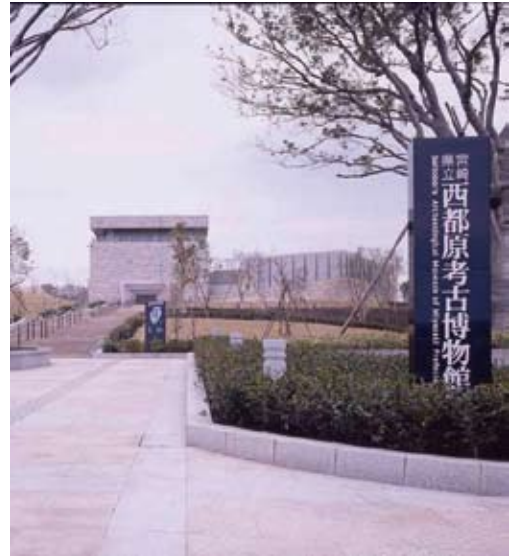
FAX：0983-41-0051

HPアドレス：<http://saito-muse.pref.miyazaki.jp>

連携事業者名：韓国国立中央博物館，韓国国立中原文化財
研究所

会 場：宮崎県立西都原考古博物館，西都原古墳群ほか

事業期間：平成21年7月7日～平成22年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

本館では、平成16年4月の開館以来、古代における東アジア地域の文化交流を重要なテーマと位置付けて調査研究を行っており、その成果を「日韓交流展」で公開してきた実績がある。今回の事業はそのような活動の一環であり、館活動の一層の充実に寄与するものとする。

2. 企画内容

①事業目的

学術研究と普及活動に重点を置いた国際交流関連事業を展開し、調査・研究を通じて人的交流を促進し、相互理解の一助とするとともに、地元の文化遺産の周知を図り、その一層の理解を促す。

②事業概要

本年度より「日韓交流展」を発展させる形で台湾に対象領域を広げ、「国際交流展」と銘打った展示会を実施することとなった。今回、その関連資料として、宮崎県串間市出土と伝えられる玉璧を所蔵機関より借用した。

また共同調査・研究の一環として、韓国と宮崎県内の遺跡の発掘調査現場に相互に研究者を派遣した。

さらに、それらの研究成果を串間市で開催したシンポジウムや報告書により公開し、文化遺産の保護や活用について広く情報発信を行った。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

①国際交流展「玉と王権」関連資料借用

東アジア地域における王権の成立と玉文化について紹介した国際交流展「玉と王権」は、平成 21 年 10 月 9 日（金）から同年 12 月 13 日（日）までの会期で開催した。その中で、文政年間に現在の串間市域で出土したとされる玉璧を財団法人前田育徳会より借用し、展示した。その輸送に際しては、美術専用車を用いて平成 21 年 9 月 1 日から 4 日間かけて本館まで陸送した。軟玉製の璧が放つ輝きに多くの観覧客が見入っていた。

②国際交流展関連シンポジウム「街づくりと文化遺産」

日時：平成 21 年 11 月 14 日（土）午後 2 時から午後 4 時まで

場所：串間市文化会館小ホール

上記玉璧の展示を周知し、地元の誇りとすべき文化遺産に光をあて、地域の活性化に寄与することを目的としたものである。

パネラーは台北市故宮博物院副研究員の林 明 美（Lin Ming-Mei）氏と日南市教育委員会の岡本武憲氏、串間市青年会議所理事長の田中宗志氏の 3 名であり、コーディネイターを本館学芸普及担当主幹の北郷が務めた。

まず、林明美氏が台湾臺北県八里の海岸で発見された十三行遺跡の保護と周辺環境創出を図り、十三行博物館の建設に至った経緯と地域住民の意識の変化を紹介し、それを踏まえてフリー



シンポジウム開催状況

トークの形で各氏が文化遺産の保護と活用についての意見を述べた。

玉璧のほか、各種の文化財など地元に残る文化遺産に目を向け、価値を再確認するとともに、その活用について考える絶好の機会となった。

③韓国関連機関との共同調査・研究

a. 韓国国立中原文化財研究所との共同調査①

日時：平成 21 年 7 月 24 日（金）から同年 8 月 2 日（日）まで

場所：韓国忠州市

本館学芸普及担当の甲斐が、忠州市にある下九岩里古墳群の発掘調査に参加した。一定期間、調査に参加することで、発掘調査手法の違いを認識する機会となった。また期間中に「南九州の墓制と西都原古墳群」と題する講義を行い、ディスカッションの機会を得ることができた。

b. 韓国国立中原文化財研究所との共同調査②

日時：平成 21 年 12 月 2 日（水）から同年 12 月 8 日（火）まで

場所：宮崎県西都市

韓国国立中原文化財研究所の姜 碩 範研究員が来日した。宮崎県内の史跡を実見した後、整備事業に伴い本館が発掘調査を実施している西都原古墳群 202 号墳の発掘現場で、

周溝堆積土の土層確認と分層、諸記録作成等の作業を共同で行った。

また日向国府跡・国分寺跡などの西都原周辺地域の古代の史跡を踏査し、周辺に残る地割りについて調査を行った。

c. 韓国国立中央博物館考古部との共同調査

日時：平成22年3月8日（月）から同年3月12日（金）まで

場所：宮崎県宮崎市・西都市・新富町・高鍋町・鹿児島県鹿児島市・霧島市

韓国国立中央博物館考古部との共同調査・

研究では、列島の縄文時代後期後半～晩期及び弥生時代早期における韓国（特に半島南西部・済州島）と南九州との文化交流を当面の主たるテーマとしている。

本年度は李ジンミン学藝研究士が来日し、鹿児島市不動寺遺跡や都城市黒土遺跡、高鍋町持田中尾遺跡などの宮崎・鹿児島県内の関連資料を実見し、基礎資料を収集した。



共同調査・研究の状況

（2）参加者の数

＊国際交流展「玉と王権」

参加者人数 延べ 24,270人 （内訳データなし）

＊国際交流展関連シンポジウム「街づくりと文化遺産」

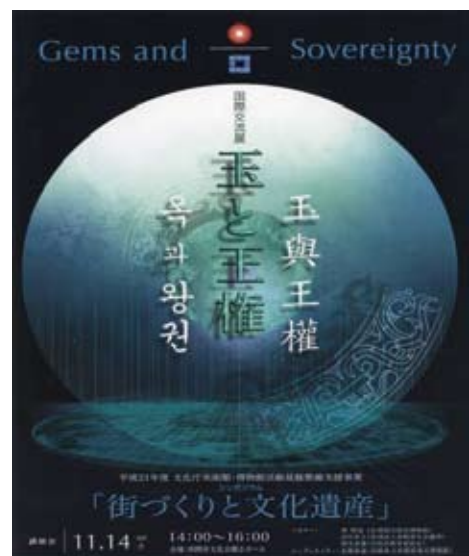
参加者人数 延べ 140人

内 訳：千葉県1名、宮崎市24人 西都市9人 日南市7人 他は串間市

（3）事業により作成した印刷物等

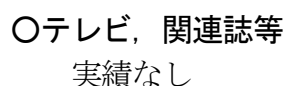
国際交流展関連シンポジウム開催周知のためのポスターを500部、チラシを2,000部作成し、特に県南部の関係機関を通じて掲示・配布を依頼した。デザインは国際交流展広報用のものと意匠を揃え、統一感を持たせた。

また本年度の当事業の概要を記した報告書を200部作成し、関係機関に配布した。



シンポジウムちらし

○新聞記事



本館の立地する九州東南部は、南方に広がる海洋に面する地域であるが、これまで先史時代における大陸や半島との文化交流について論じられる機会は多くなかった。また、地元にある文化遺産や地元由来の文化遺産に対する認知度も高いとは言えない。

そのような中、今回の国際交流展での関連資料（玉璧）の展示やシンポジウムを通して、近年の考古学的研究の成果や他国・地域での文化遺産の活用事例について情報発信を行うことができた。また地元の青年会議所を中心に、自らの地域と文化遺産を掘り起こす動きが確かなものとなった。

さらに、研究者の人的交流により、それぞれの国・地域の資料や調査手法の相違点についての認識が深まり、今後も推進していく相互交流の基盤が整った。